

会 議 録

会議の名称	平成30年度 第3回豊中市立図書館協議会		
開催日時	平成31年(2019年)1月22日(火)18時00分～20時00分		
開催場所	豊中市立岡町図書館 3階集会室	公開の可否	㊦・不可・一部不可
事務局	読書振興課 岡町図書館	傍聴者数	2人
公開しなかった理由			
出席者	委員	尾崎 理人 吉岡 一美 天瀬 恵子 松田 美和子 岸本 岳文 瀬戸口 誠 有本 恵子	
	事務局	吉田教育委員会事務局長 北風岡町図書館長 須藤庄内図書館長 虎杖千里図書館長 松井野畑図書館長 萩原岡町図書館副主幹 山根岡町図書館副館長 永島岡町図書館副館長 伯井岡町図書館主査	
	その他	欠席：渥美委員 舟岡委員	
議題	1. 中央館構想と豊中市立図書館における施設配置のあり方について 2. その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

平成30年度（2018年度）第3回図書館協議会 記録
日時：平成31年（2019年）1月22日（火）18時～20時
場所：豊中市立岡町図書館 3階集会室
出席者：（敬称略）
委員：尾崎 吉岡 天瀬 松田 岸本（委員長） 瀬戸口 有本
事務局：吉田 北風 須藤 虎杖 松井 萩原 山根 永島 伯井
開 会
資料確認

●委員長

図書館協議会の運営方法について、豊中市では原則的に会議を公開し、傍聴は10人を定員としているが、定員を超えた場合は状況を見ながら私の方で判断させていただくということによろしいか。傍聴の方にはアンケートをお願いしており、特に委員の皆様にもお伝えすべき内容は報告させていただく。

前回会議録については、事前に送付されたものにご意見等はなかったもので、概要として、発言者については個人名を掲載せず「委員」とのみ表記して公開することを了承いただきたい。本日の議題は「中央館構想と施設配置のあり方について」、事務局から説明をお願いします。

●事務局

事前送付資料の「中央館と地域館・分館の機能分担案」について説明させていただく。前回お示しした資料に、2回目の協議会で出た意見を●印で追加している。多様な議論の中でポイントとなる論点については【】でまとめ（例：1ページ目の全般の【PR】や【ニーズ把握】）、豊中市として必要な視点として多くの意見をいただいたと認識している。2枚目は、資料収集・提供・保存とレファレンスサービス双方に関わる意見（コレクション構築など）も参照的に取り入れている。前回のご意見を付け加えた形に修正したものです。

●委員長

最終的なまとめについては後で議論する。この表について、追加や膨らませる部分等、意見はありませんか。

●委員

中央図書館機能に「現状分析、調査、研究、企画立案等図書館方針の迅速な決定が可能となる」とあるが（1ページ目）、迅速な決定が必要な事例とはどんな想定なのか。緊急や迅速な決定では、中央館にフィードバックして決めるよりも

地域館・分館でその場で決めたほうが早く対応できる。

レファレンスサービスの現状・課題の欄に「連携窓口の分散」という文言があるが（2 ページ）、各館に窓口がありきちんと対応出来ていれば課題ではない、分散していてもよいのではないか。なんでもかんでも課題として取り上げるよりそれを肯定的に受け入れられないのかという感じを全体に受けた。

利用者に応じた図書館サービスでは、地域館・分館機能に「潜在的利用者、隠れたニーズの把握」とあるが（4 ページ）、とても難しいことだと感じている。これを可能にするには各関係部署との連携が必須になるだろう。隠れたニーズの把握の下に、各関係部署との連携を書き加えたほうがいいのではないか。書くのは一行だが実際にそこに行き着くまでに大変な作業があると思うが。

●委員長

「迅速な決定」について、現状・課題のほうにあがっていない。何が問題で何が課題かというのがあれば分かりやすい。具体的に今の問題はどんなところか。

●事務局

例えば児童サービスという切り口を考えると、4 地域館がサービス別に窓口として機能しており、ブックスタートは庄内図書館等、それぞれ役割分担をして児童サービスの対外的な窓口機能を果たしている。その中で大きく児童サービスを見据え全体的な視点で決定していく場合、それぞれが把握している情報をまとめて集約しなおす必要がある。体制の整った中央館で全体のサービス機能を企画・立案する中でオール豊中としての事業展開が出来ると考えている。各館で窓口を担うのは確かにいい部分もあるが、全体的な視野を持って判断すべきところが少し足りないと感じている。

●委員長

個別の調整を各館毎から一本化する、事業によっては決定した時に即座に人員体制や応援をどう派遣するか等を一本化して決めるイメージか。連携窓口の分散を課題にあげているが、そこでの課題は何なのか。

●事務局

対外的な連携窓口を各館が分担する中で、複合的な課題について、図書館内で意見調整を図りながら対外的な調整を行うことになる。中央館として全体把握ができる体制が必要だと考えている。

●委員長

地域課題に関するレファレンスでは、図書館だけで回答するのではなく、他の部局などから様々な情報を集めてそれに対応していくというイメージになる。地域に関わる課題では、図書館の資料だけでは十分に回答できないことが多く、レフェラルサービスとして他の機関の協力を得て回答・情報提供を行う。その場合は、一本化した窓口があれば対応しやすい、別の図書館で既に同じような事例に適切に対応していた場合には情報を共有してくというイメージになるのかと思う。

隠れたニーズの把握では、障害者サービスのニーズに対しては個別対応が基本になると考えている。障害を持っている方が図書館でどういうサービスがあるのか知らないことも多く、自分に合ったサービスが図書館で実現できるのかも分からない中で、積極的に声をあげられない状況にあると思う。障害者サービスでは、図書館が積極的に個々の障害者の方々に図書館の働き等を説明しながら、利用者の状況に応じて、図書館としてどんなサポートができるのかを提案していく必要がある。対面朗読をやっているという形式的なサービスだけではない。

●委員

レファレンスサービスに関して（2 ページ）、小中学生でもレファレンスサービスのニーズはある。学校図書館の資料には限りがある中で、調べ学習や夏の自由研究等で詳しい資料を求めて図書館へ子どもたちが来た際、地域館から参考室がなくなり相談だけになるのか、参考室が地域館に残って対応してもらえるのか、具体的なイメージが見えない。例えば庄内地域の子どもは野畑図書館が中央館になったからといって気軽に行くことは出来ないし、同様に北部の千里中央の子どもが岡町図書館まで気楽に行けるわけではない。窓口で相談は可能だが、実際資料の提供は中央館だと子どもたちの足が遠のいてしまう。学校図書館が窓口となって個々のニーズに応じるのは難しい。調べ学習で大量の資料が要るときに学校図書館の窓口で個別のレファレンス対応ができるかという点も難しいと思う。子どもたちが何か調べたいと思った時に、図書館から足が遠のかないようにするためには、地域館のレファレンス機能が意味を持つのではないか。その記述が具体的にはないので、学校現場としては不安に感じている。

小中学校図書館支援というところで（4 ページ）、中央館が連携・調整して地域館が持っている資料等も含めて連絡便で資料提供していただけると解釈していいのか。そのあたりの具体的な話があれば教えて欲しい。

●委員長

事務局のイメージとして地域館のレファレンス機能をどう考えているのか。

●事務局

中央館機能の一番大きな眼目は、資料と人を集中してより豊富なところからの確で高度化したレファレンスサービスをめざすことで、中央館にレファレンス機能を集中させるイメージは持っている。ただ、子どもに限らず、身近なところでレファレンスを申し込んでいただき、職員はスキルアップしながらその場で可能なところは回答し、より豊富な資料や情報提供が必要であれば、中央館に内容を伝え資料ごと身近な館に回送し回答する。中央館の持ち出し不可資料であっても館への回送を行い、身近な窓口で資料群を見ていただき回答を伝えるイメージを持っている。小学校のレファレンスや問い合わせに関しては、現状はこども室を中心に対応し情報提供を行っている。今後も分館・地域館での対応を基本としながら、必要であればそれを中央館にあげてフィードバックするというイメージを持っている。

●委員長

地域館が図書館としての機能を果たすには、一定のレファレンスコレクションは当然必要である。地域館のレファレンスサービスの規模は今より少し縮小されるかもしれないが、レファレンスコーナーとしての機能は持つ。機能分担案の資料では、全く無くなってしまわないかという誤解を招く恐れがあるので、レファレンスサービスの地域館の働きについてはもう少し具体的に書いたほうがいいだろう。連絡便はどうなりますか。

●事務局

連絡便については、各学校からリクエストいただいた資料を届けるという今と同じ形になると考えている。中央館で実務をやるのか、もう少し分散させたほうがいいのかは、今後の調整となる。学校司書が図書館に来て資料の相談等は、身近な図書館として今後も地域館・分館に残る機能だと思う。

●委員長

学校図書館については、中央館かどうか別にして将来的には学校図書館支援センター的なものを議論していかなくてはいけないと思う。

●委員

勤務するこども園の園児や職員は、普段は庄内図書館を利用して本や資料を用意してもらっている。地域館・分館でも資料が揃えてもらえると安心だ。資料が届くまで時間がかかる場合もあると思うので、地域館の役割についても、もう

少し明確に書いていただけたらと思う。

「複合化した課題に対応」の「多文化共生×子育て支援」「子育て支援×就労」では（2 ページ）、関係機関とどうつながりどう支援していくのかといった記述があればいいと感じた。「学習（自己・グループ等）の場の不足」では（3 ページ）、どのような課題があるか記述があった方が分かりやすい。

●委員長

議論をシンプルにするために、あえて課題を具体的に書き込んでいない部分がある。「まとめ」の段階では、外部の方にも見ていただく上で、全体に具体的なイメージを踏まえて整理したほうがいいかもしれない。

●委員

【人材育成】に「市民が何を聞いても応えられる人を育てる」とあるが（5 ページ）、これは不可能だと思う。何を聞いても応えられるというよりは、市民が自分で答えを出せるようにサポートできるような組織をめざしていくべきだ。

「先回りして現状を把握し図書館のあり方を打ち出せる人材育成」とあるが、イメージ的なものだが、別に先回りしなくていいのでは。今は急ぐよりも子どもたちも「ゆとり」や「さとり」と言われている時代なので、自力で力をつけられるような支援や、一緒に寄り添うタイプのあり方が今の時代にあっているのではないか。

障害者サービスについての話もあったが、かつて司書の資格を取るために要約筆記を耳の不自由な方から依頼されたことがある。図書館に来館が困難な方が来た時に、図書館サービスを利用できるように、フェイストゥフェイスを意識して考えてほしい（例：目が不自由な方が DVD 視聴する時に横で説明する、視覚障害者等に DAISY 図書の利用法を案内する、聴覚障害者の DVD 視聴を要約筆記でサポートする等）。隠れたニーズというよりは、今ある図書館サービスを障害者が健常者と同じように利用出来るようなサポートの仕方という方向性もあるのではないか。

●委員長

図書館で応えられるというのは、レファレンスにしても図書館員が解答を示すのではなく、利用者が求めている情報をきちんとつないでいく役割を言う。利用者の質問を的確に把握して、必要な情報を提供する対応が出来るというのがここでいう「応えられる」という意味合いだと思うが、誤解を招かないよう文言には工夫が必要になる。

図書館は、世の中がすごく動いている中できちんと立ち止まって考える場所

だと思う。世の中がすごいスピードで動いていくのに合わせて走るより、これでもいいのかと立ち止まって考えるときに図書館が必要になることを大切にしていかななくてはならない。

●委員

中央図書館機能の「現状分析、調査、研究、企画立案等、図書館方針の迅速な決定」や“オール豊中”の事業実施などうたわれているが（1 ページ）、地域館・分館の機能がどうなるかが見えなくて不安を感じる。以前の図書館協議会で南部コラボの図書館機能について議論があったが、図書館を中心に様々なところとつながるコラボ機能と中央館機能の関係をどう整理していくかが分からない。先日千里コラボで所属団体の事業を行った時、図書館の窓口が岡町だったため、千里公民館との調整は千里図書館ではなく岡町図書館が行ったが、連絡がうまくいかないことが多く何のためのコラボなのかと思った。この表からはコラボで培っていくものと、中央図書館の機能分担のイメージがわからない。中央図書館に資料や人材を集中させる必要性は理解できるが、地域館のあり方としてその地域である程度の力を持った地域館がないとだめだと考えている。今あるサービスが低下しない形の中央館構想に、コラボ機能を持った地域館がどう関連していくのかもあったほうがいい。

●委員長

この協議会での様々な議論というのは、地域館でより効果的に質の高いサービスをしていくためのものだとして理解している。中央館ありきではなく、地域館がよりよい仕事をしていく上で欠けているものは、それぞれの仕事をバックアップする体制だと思う。資料と人の裏付けがあって初めてそうしたバックアップが可能になる。中央館を作りましょうという議論ではなく、今ある地域館がより質の高いサービスをしていくためにどうしていくか、豊中に欠けているものは何かという議論から始まっている。いいサービスをするためには、一番利用者の近いところにいる地域館が、自分たちで責任を持って決めていく仕組みが大切だ。中央館から地域館に指示が出て一体的に動いていくピラミッド型の中央館ではない。ここで議論すべきは、各地域館が自立していろいろなサービスをするために、地域館の自主性を重んじながら最大限力が発揮できる仕組みをどう作るかだと思う。地域館を充実させるための議論という部分が、まとめの中で見えてくる形にしたほうがよい。何をめざしているのかも押さえておいたほうがいいだろう。図書館サービスをよくしていくには、市民の身近なところの地域館で、カウンターの職員の声で利用者にサービスを届ける関係が大事だ。このことは【豊中の図書館の強み】のところ（5 ページ）に書き込んであるが、地域館が今

まで築いてきた利用者との繋がりは図書館の一番の強みであり、その点も含め議論の焦点がどこにあるかをもう少し分かる形にしたほうがいい。

●委員

「子どもたちが新しい知的好奇心に出会えるコレクション」とある(2ページ)。前回の議論でもあったが、図書館が市民生活に根付いていくには、図書館で調べ学習等をしっかり出来る環境を作っていく必要がある。「調べる過程を大切にする取組み」(4ページ)は、かなり大変だが図書館でやっていかないといけないだろう。学校では、人的にも、実際の資料コレクションの面でも難しいところがある。調べ学習的な取組みを、図書館の使い方を通して図書館から発信していくことが、これからの図書館に求められる。

教育の方法や学び自体が変化していく方向性にあるが、日本の教育の中で学びを考える一つの場所として、公共図書館は子どもだけでなくあらゆる年代の人の学びを支えていくために非常に重要なところであると考えている。豊中は郷土関係のレファレンス事例を中心に積極的に国会図書館のデータベースに登録しているが、子どもに対象範囲を広げるとか、国立国会図書館のリサーチ・ナビの子ども版のようなものを豊中に引き寄せた形で作る等して、どんどん情報発信していくことで、知的好奇心を引き出せるのではないか。本を借りるだけではない図書館の使い方、様々な資料を活用し物事を調べていくプロセスを体験する場として図書館があるべきかと思う。現状では、インターネット等がより簡単に利用でき、外部の汎用性のあるツールやシステムを利用して今言ったような形の情報発信が出来るのではないかと思う。そのあたりをぜひ中央図書館機能の中でお願いしたい。

●委員長

学ぶことの面白さや楽しさをどう伝えていくかが、これからの図書館には求められている。学校とは違った意味での学びの面白さや発見、知ることの面白さを、図書館が発信していかないと伝わっていかない。利用者のそうした体験を、図書館がどのように捉えて広げていくかを考えていかなければならない。今まで挙がってきた意見をまとめの中にポイントとして入れていく。他に何かご意見あれば。

●委員

図書館と市民という位置付けでこの議論が進んでいて少し違和感があったが、中央館機能と地域館・分館そして市民という枠組みで考えたら疑問が解消された。例えば、企業でも本社を事業部制やカンパニー制にして権限や機能を縮小す

る傾向があるが、それと同様に地域館・分館をうまく機能させるために一步引いたところに中央館があつて、情報や予算を把握し調査や企画・連携などの裏方の機能を少数精鋭で特化してやっていく形が、今の世の中にも合っていると感じた。

●委員長

中央館を図書館のバックヤード機能という点だけで考えればその通りだが、中央館機能はバックヤードだけではなく、資料の裏付けが必須だ。中央館に一定の資料コレクションがないと、バックヤードの働きが果たせなくなる。大きな書庫であればいいのかと言うと、これは市民から見ればもったいない話になる。実は中央館は一つの地域館でもあり、サービスをしながら、資料コレクションの裏付けを持ってバックヤードの機能を果たしていかなければならない。その部分が図書館の中央館を考える場合、どうしても欠かせないポイントになる。

●委員

「資料収集・提供・保存」では(2ページ)、資料を提供するという表現が目につくが、図書館は積極的に資料を収集する姿勢が重要だと思う。もちろん館内で収集して様々なレファレンスに対応する姿勢も大事だが、図書館自らが、いろいろな資料を地域のあちらこちらに出向いて収集し、課題を解決していく姿勢も地域館には必要だ。提供だけではなく収集活動も全ての場面において考えていかなければならない。「隠れたニーズの把握」とあるが(4ページ)、把握するためには図書館が現地に行き事情を収集しなければならない、そういう姿勢もどこかに入れるべきだと思う。

●委員長

基本的には【地域資料の収集】(2ページ)に繋がる。中央図書館機能の「資料収集・提供・保存」の項で「地域館で集めた地域情報を中央館が整理して提供」とあるが、コツコツと情報を集めるには、地域館が利用者と関係を構築していかなければ地域の情報は集まってこない。

●委員

大きな町並みの変化や大規模な地域開発等が始まる情報を聞きつけたら、積極的にその場に出向いて以前の状態の資料を収集することも必要になってくると思うが、この表にはそこまでの記載がない。図書館自らが動く大切さを入れることで、地域館の重要性が増大するという視点に結びつくので、その点の記載もお願いしたい。

●委員長

職員が地域の中に出向くことがより要求されるだろうし、利用者のほうから気付いて図書館に持ってくるぐらいの親密な関係性を作っていく。その両方が必要だと思う。

●委員

地域館と中央館の役割分担では、地域館である程度のレファレンス資料を整えることが、学校や子どもたちの立場から必要だと考える。地域館ではそういう働きをしていただきたい。郷土史料は現在は岡町図書館 3 階に保管されているが、中央館で集中管理する方が専門家や研究者にとって使い勝手がよくなるだろう。地域館が持つ資料、中央館が持つ資料を、それぞれの機能の中できっちり書いていただければと思う。

例えば、池田市には郷土史料館（池田市立歴史民俗資料館）があり、考古資料と古文書が同じ建物の中で収集・保存・展示されているが、豊中市にはそういうところがなく、考古資料は生涯学習課の文化財保護係が担当し、古文書類は図書館で保存している。司書は資料のレファレンスについてはプロだが、郷土史料についてのプロは文化財保護係にいる。郷土史料については、中央館が窓口になって生涯学習課との連携をどう取るのかという記述があってもいいと思う。

●委員長

近世の文書と市の行政文書の現状はどうなっているのか。

●事務局

古文書は、岡町図書館と生涯学習課および文書館で保存している。今、この3者でそれぞれが持っている資料の情報を交換しながら今後の保存と提供について検討を始めている。

●委員長

歴史資料としては近世以前の文書類と近代史の文書（行政文書としては歴史的な文書になっている）、それと行政文書をどう切り分けていくのか、単独で全てを保存するのは難しいので、関係課との調整をどうしていくのかも課題である。

●委員

よりよい図書館サービスのために、地域ニーズをしっかりと把握していくことが大切だ。地域の自主性や特性を活かした地域に根ざした図書館があってもいい

いと考える。庄内図書館をよく利用するが、庄内地域には昔から住んでいる高齢者の方も多く、昔のことをよく知っている方、絵を描かれています方、古い地域の写真を持っている方もいる。地域に詳しい方に話を聞き、聞き取り等で情報を集めるアプローチもあると思う。そういう市民の力を活かした資料があってもいいと思う。

●委員長

これからの図書館は資料だけでなく、図書館を通じて人の紹介も考えられる。地域の事柄で知りたいことがあれば、図書館が仲介して人を紹介（貸し出し）する。図書館はそういう情報をきちんと持っているなければならない。

●委員

図書館は、ますます大変になっていくと思った。図書館は様々な所と関わって中心となっていける、また市民も一緒に育っていける所なので、地域館が今以上にしっかりサービスをして、中央館がサポートという訳ではないが、ある意味流動性を持って対応してほしい。地域館が4館あり窓口が分散する大変さもあるがそれが特徴となっている部分もあるので、各地域館で起こっていることを中央館で上手くまわしていく形を考えてほしい。とてつもなく大変でなかなかシュミレーションができないが。

●委員長

図書館は利用者が育ててくれる。だからこそ地域館を機軸に置いておかないと、図書館そのものがやせ細っていく。利用者が一番育ててくれるのは地域館で、それをきちんと吸収して豊中全体の財産にしていくことが、ここで考えなければならない中央館だ。これがピラミッド型の中央館になってしまうと、図書館の成長や育ちの芽がなくなってしまう。図書館は市民との関わりの中で育てられるものであり、中央館が一生懸命それをやったとしても、組織は肥大化するかもしれないが図書館の内実として豊かになっていくとは思わない。市民が育ててくれる図書館をどう作っていくのか、今まで豊中がこうした活動を展開してこられたのも市民が図書館を使って育ててくれた結果で、それが豊中にとっての一番大きな財産になっていることを外してはならない。

●委員

人材バンク機能だが、地域の様々な人々から図書館にフィードバックしてもらえる仕組みを整えば、まさに地域の活性化に繋がる。特に情報面では、既に北摂アーカイブスのような事業があるが、例えばそこに参加しなくても地域の個

人が持っている情報が、気軽に図書館に集められる仕組みがあればよい。インターネットによる集積の仕組みも研究していく必要がある。それが可能になり、市民の目線で見えた豊中の風景や記憶が一定程度集まってくれば、それ自身が地域情報になってくる。市民に情報を自発的に出してもらっただけでなく市民が交流できる場所も考えていけば、地域や図書館に対する愛着も増してくるのではないか。

●委員長

インターネット環境の中で豊中・豊中の文化をどう発信していくか、中央館に求められる一つの機能であるだろう。そうした情報環境の中での位置付けは、押さえておく必要がある。

最終的な「まとめ」をどうするかだが、この「機能分担案」はポイントだけの記載になっていてイメージがわきにくいとの意見もあったので、箇条書きのポイントについてももう少し具体的な記述をする必要がある。それと、「はじめに」で、なぜこの議論をしているのか整理が必要だ。なぜこの議論をしているのか、それを通して何をめざしていくか、豊中の図書館をどういうふうなものにしていきたいのか、という部分が必要。それに続く個別のところは、サービス機能ごとに整理した形でいいだろう。現状・課題の項目については、現状どうなっていて、何が問題かを分かりやすく記述する。

●委員

現状と課題だが、今の図書館をよりよくするための中央館と考えていたので、課題があるから中央館を作って解決するという議論ではないような気がする。今あるいいところまで切り捨てられるのではないかと危惧している。そういう意味で、現状と課題という捉え方は最初からひっかかっている。

●委員長

現状を肯定的に捉えたうえで、これをよりよくしていくためにどうしたらいいのかという時に、それを現状と課題と捉えなくてもいいということだろうか。少なくとも、豊中の図書館をよりレベルアップさせる上で、あえて問題点を探す必要はない、問題点に合わせた設定をする必要はないということか。

●事務局

現状を肯定いただくのは非常にありがたいが、この議論の前提として、昨年度と今年度の最初の協議会において、公共施設の総合管理計画等をふまえた中で今後図書館を今の形で維持するのは非常に困難である状況を説明した。図書館

だけでなく施設の再編に向け市の置かれた状況についてご確認いただいた中で議論に入ったと認識している。今出来ていないサービスの向上も含め、全体を見直すことが事務局提案の大元のところで、そこは今も変わっていない。図書館サービスが人員も資料費も増えていく状況ではない中で、ただ縮小ではなく、今出来ていない機能を盛り込みながら全体的に見直しを行う事務局提案である。『基本政策』で「中央図書館構想の策定」が市の方針として挙げられているが、いつ・どこに建つのが決まっていないうえ、機能に特化した議論をしていただいている。それを具体化していくうえで、いかに効率化を見据えながら進めていくかが今の立ち位置と考えている。機能論ではあるが、そういった点を前提とした機能だということを議論の方向として考えていただきたい。

●委員長

施設の再配置を前提としてその機能について整理しているが、ここでの現状と課題は、市民から見た図書館の問題点というより、そうした視点から図書館を運営し将来的に発展させていこうと考えた時に、図書館が認識している現状と課題と捉えたほうがいいだろう。人の配置等の市民から見えない部分で、図書館が実際に苦勞して困っていることがたくさんある。それを現状と課題という形であげ、市民の方々に一定理解していただいたうえで、その解決策、方向性という形で機能の話をする。現状と課題の部分は、図書館側が今課題として認識している事柄をもう少し具体的に示し、今日の資料に出ている個別の事柄、議論にあがった新しいポイントも含めて肉付けして、地域館と中央館機能に落とし込んでいく。あまり文章化するのではなく「機能分担案」の箇条書きのポイントを少し具体的に表現するとイメージがわきやすいかと思う。図書館側が認識している課題、地域館・中央館の機能のあり様、中央館的な機能があればこういったイメージになるということが分かるような形で、個別のサービスの議論をもとに整理していただければと思う。

●委員

言いにくいことを敢えて言うと、この議論の最初は予算削減から始まっていると感じている。予算をただ減らすだけではいけないので、効率化という名目で質を高めるが予算は削減するというのが基本にあると思う。そこを避けて通ると余計にややこしくなっていく。委員から出された案には、なるべくお金をかけずに足で稼ごうという意見が無意識的に出ている。質を落とさずにやっていくには、市民を取り込んで市民の無償の労働力を使うことも考えていく。市民グループが運用をやっていくと、図書館が一番手放さないといけないのは権限だと思う。分館の権限を自由にすれば、活動は活発になり、図書館の経費も減り、そ

れが最終目的なのでは。費用や予算を抜きに機能を高める話をここで議論しても行政の中までは届かないのではないか。現在は予算を削減しながら効果を上げることはどこの業界でも求められていて、シビアに本音で議論をした方がイメージとしては分かりやすいという気がする。

●委員長

議論の前提として、施設再編はあるが予算・人員削減は出ていない。予算は増えとも削減されるとも分からないが、前提として、施設の再編は避けようがないだろうということだった。中央館を作るとなるとかなりの投資が必要になり、豊中市としては図書館に対する大きな投資をしないと実現できないだろう。

●委員

他の自治体では、施設再編で中央館を作って、中央館は直営で運営するが分館は委託にして安易に人員削減を行っているところもある。そうならないために、現状と課題というより施設再編にむけて中央館と地域館・分館の関係をどうしていくかだと思う。理想論でもいいから、こういう地域館、こういうサポートをする中央館であってほしいという形を示せればと思う。

●委員長

「はじめに」に、なぜこの議論を始めたのかについて書いておく必要がある。大きな中央館を作ったから地域館はいらないという議論にしてはいけない。施設再編の中で一定の見直しは避けられないだろうが、今まで豊中の築いてきた地域館の豊かな力をより強めていくための仕組みをどう作るのかという議論だ。そうでなければ、施設再編の中で、大きい中央館を作って後は全部いらないという議論にすり替わってしまいかねない。協議会の意見書の中で、方向性を確認するものにしておかななくてはならない。

●委員

中央館と中央機能というのを完璧に離してはどうか。図書館としては中央館は分館の一つと考え、機能がその場所にあるだけというほうがしっくりくる。

●委員長

今までのまとめとして、「はじめに」で議論の焦点を記述し、図書館の様々な現状と課題を整理し、地域館・中央館の機能の働きを箇条書き的に具体的に入れた素案を事務局で作し、次回までに各委員に配布する。事務局は各委員から寄せられた意見を次の会議までにフィードバックする。各委員が出された意見を協議

会前に読んでおくと議論がスムーズに行くと思う。次回の会議で一定の形にまとめたいのでよろしく願います。

●委員長

その他の案件に移る。

●事務局

本日の配布資料について説明する。

庄内瓦版「ええやん！しょうない」（資料 2）。今回の特集は「ミナミのミライ」ということで、（仮称）北校と（仮称）南部コラボセンターの特集となっている。庄内図書館が事務局を担当しているしょうないREKが図書館のリサイクル本を販売した収益金によって作成したもの。

豊中市立図書館の運営状況に関する評価についての概要版（資料 3）。先に出された評価の報告書について、図書館評価部会の委員から「もう少し市民にわかりやすく工夫していくことも必要である」という意見もあり、概要版を作成した。東豊中・庄内幸町の開館 25 周年、服部図書館の 20 周年の記念特製ブックカバー（資料 4）。職員からの提案により、職員自身が作成したもの。クラフト用紙に印刷して当該の館で配布。現在は配布を終了しているが、図書館ウェブページからダウンロードできるようデータをあげている。

子ども読書活動フォーラム（資料 5）。2 月 2 日実施予定で、今年度 7 回を迎える。『ざんねんないきもの』の今泉忠明さんを講師に迎えた講演会のほか、夏休みに各図書館で開催された知的探究合戦「めざせ！図書館の達人」で代表に選ばれたグループによる発表と表彰式、また今年度は中学生によるミニビブリオバトル（参加者が 3 分で本を紹介、読みたくなった本を投票で決定するもの）もあわせて開催する。

●委員長

今回は 3 月 20 日（水）です。平成 30 年度 3 回図書館協議会を閉会します。